

食べてすぐ寝て牛になる



子牛はミルクを飲んだ後、どのような行動をとっているのでしょうか？

左の写真のようにすぐに横になって寝始める子牛もいると思いますし、右の写真のようにお互い舐め合ったりハッチを舐めたりなどして活発に動いており手を差し出すとちゅーちゅー吸ってくるような元気いっぱいの子牛もいるかもしれません。

これらの子牛の行動について先日ゼノアックの先生が興味深い話をしていましたので紹介したいと思います。

お腹いっぱいリラックス (写真左)

人でもお腹いっぱい（満足できるまで）食べた直後は、頭は働かなくなるし体も動かしにくくなるものです。これは食後に副交感神経が働き、血液が消化管に集まるためなのです。副交感神経とは食後に必要な機能を亢進させる神経系で、消化管の運動を活発にして食物の消化・吸収を促進させます。この副交感神経は『寝る』などのリラックスモードでも働きが強まり、消化器運動を活性化されます。牛でも同様に、食べた直後に寝ている牛はよく消化・吸収させるために起こさないであげたいところ。

また、寝ている時は安静状態でありエネルギー消費もほとんど起こりません。食後すぐに寝ると血中の糖（エネルギー）が消費されないので残ったものは脂肪として蓄積されていきます。お相撲さんもこの方法で体重を増やしているようです。

まだまだ飲み足りない?? (写真右)

ミルクを与えた後もいろんなところを舐めたり吸ったりしているのは哺乳欲がまだまだあり余っています。飲みたいのに飲めないストレス状態では子牛の免疫力も低下し、病気も増えがちになってしまいます。ちなみに和牛のように子牛を親牛につけて飼育している場合、子牛は1日10~12Lのミルクを飲むとのこと。

リラックスして寝ることが重要！！

→そのためにも寝ている牛を起こさないようにしましょう

「食べてすぐ寝たら牛になる」

という諺もありますが、牛を飼育する教訓でもあるようです。

現在のミルクの給与量で給与後もまだまだ哺乳欲を示す子牛が多い場合、それらの子牛の哺乳欲に合わせて給与量を増やしてみてもいいでしょうか？特に今回のM情報で佐竹先生も書いている通り、これから冬に向かって子牛の必要エネルギーは増加していきます。

食べて すぐ寝て よく育つ！！

そんな環境作りを目指しましょう！



←（食べたらずぐ寝る住谷君）